



創立1880年

〒135-0016
東京都江東区東陽2-2-20
Tel 03-3615-5562
URL <http://tokyo.ymca.or.jp>
発行所 公益財団法人 東京YMCA
発行人 菅谷 淳

東京YMCA

10

2017年10月号

東京YMCAの使命

東京YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の精神にもとづいて、青少年の精神、知性、身体的全人的成長を願い、地域社会に奉仕し、公正で平和な世界をつくるための運動を展開する。

ロゴマーク刷新

【新スローガン】

みつかる。つながる。よくなっていく。



ロゴ1



ロゴ2

【従来のロゴマーク】



正章は今後も
変わらない



略章は今後、
使用しない



新ロゴ入りTシャツを着るYMCAチャイルドケアセンターのスタッフたち

日本全国のYMCAは、長く親しんだロゴマーク「YMCAの赤三角」を刷新。10月1日、新しいロゴとスローガンを発表しました。

これはYMCAのブランド再生のために、2014年度から専門家を交えて取り組んできた「ブランディング・プロジェクト」によるもので、16年に作成された「ブランドコンセプト(下図)」をもとにデザインされました。

新しいロゴマークの愛称は「ポジティブY」。鳥が飛び立とうとする瞬間の姿をモチーフにし、生命の息吹、未来へ向かう前向きな力、平和への

想いを表現しています。アルファベットのYをかたどりながら、新しいスローガン「みつかる。つながる。よくなっていく。」の三つの価値と、これまで赤三角形に示された「スピリット、マインド、ボディ」を内包する構成。今までYMCAが伝えてきた価値と、これから新しく提供しようとする価値の両方が込められています。

各YMCAでは今後2019年までを目標に、看板や印刷物、ホームページ、ユニフォームなどに掲出している「赤三角」を順次変更。これまでにバラバラだったYMCAのイメージを統一させたい。『東京YMCA』も、今年10月号を「The YMCA」17

「みつかる。つながる。よくなっていく。」の三つの価値と、これまで「正章」や「東京YMCAの使命」は変わることはありません。変わっていくのは、YMCAが社会に貢献し、多くの方に選ばれる存在であり続けること、それがこのブランディングの願いです。

詳細は、ホームページ (<http://tokyo.ymca.or.jp/>) もしくは日本YMCA同盟発行の「The YMCA」17年10月号をご覧ください。

総主事カフェによる
「せっかく良いことたくさんやっているのね」。これが今回のブランディング・プロジェクトを始める動機です。いいことやってもこれ見よがしにひけらかす必要はありませんが、「何かいいことをやりたい！」という人々の善意を刺激し、つなげて大きくするために「いいこと」を「発信」しなければなりません。ただし、みんなバラバラに発信しているのでは何を伝えたいのかが見えなくなり、結果何も伝わらないことになり、人にも同じ質問をしま

とになります。YMCAとして伝えるべきことを明確にした、それがブランド・コンセプトです。

私の大好きな3人のレンガ職人の話をしました。あなたがアジアを旅していると3人のレンガ職人がまったく同じ仕事をしています。レンガを積んでセメントを塗り、またレンガを積む。旅人はレンガ職人に質問をします。「あなたは何をしているのですか」。最初のレンガ職人は「見れば分かるだろう、レンガを積んでいるんだよ」と答えました。旅人は2人目のレンガ職人に同じ質問をします。旅人は2人目のレンガ職人に「あなたが積んでいるレンガは、3人目のレンガ職人が積む一つのレンガには将来の夢とビジョンがしっかりと込められていて、人に答えてほしいと切

「あなたは何をしますか」。すると「見ればわかるだろう、レンガを積んでいるんだよ」と同じ答えが返ってきました。

旅人は3人目にも同じ質問をしました。「あなたは3人目にも同じ仕事をしていますか」。すると「見ればわかるだろう、レンガを積んでいるんだよ」と同じ答えが返ってきました。

旅人は3人目にも同じ質問をしました。「あなたは3人目にも同じ仕事をしていますか」。すると「見ればわかるだろう、レンガを積んでいるんだよ」と同じ答えが返ってきました。

旅人は3人目にも同じ質問をしました。「あなたは3人目にも同じ仕事をしていますか」。すると「見ればわかるだろう、レンガを積んでいるんだよ」と同じ答えが返ってきました。

東京YMCA総主事
菅谷 淳

YMCAブランドコンセプト

Vision YMCAが実現したい世の中の姿
互いを認め合い、高め合う
「ポジティブネット」のある豊かな社会を創る。

「ポジティブネット」
互いの存在や個性を認め合い、高め合うことのできる、善意や前向きな気持ちによってつながるネットワークのこと。課題の多い社会の中で、それは、生きるためのひとつの選択肢となっていく。私たち日本のYMCAは、グローバルなネットワーク基盤を活かしてポジティブネットを広げ、希望あるより豊かな社会を創ります。

Value YMCAがステークホルダーに提供する価値
したい何かが見つかり、誰かとつながる。
私ができる、かけがえのない場所。
「みつかる つながる よくなる」*

Personality ブランドとして備えているべき個性、らしさ
心をひらき、わかち合う。
前向きで、まわりを惹きつける 魅力をもつ。

*スローガンでは「よくなる」ことへの期待を表現するため「よくなっていく。」としています。

赤三角

戦争や自然災害で長期避難生活する者が今や全世界に5千万人いると言われる。YMCAは過去には捕虜・難民・被災者への支援を主導したものの、ここ数十年難民支援からは手を引いている。一方多くの人道NGOは様々な現場をめぐって緊急対応能力を培ってきた。人道支援は日頃から態勢作りを怠らないと出づることは限られてくる。▼2年前欧州諸国を襲った未曾有の難民流入にほとんどのYMCAが無策に甘んじている中、ギリシャのテサロニキYMCAの高校生ボランティアが、難民の子どもたちを相手にゲームを始めた。子どもが笑えば母親も安心する。NGOの医者からは感謝され、何よりも高校生たちが変わった▼今夏YMCAが初企画した難民母子キャンプを視察したが、その自由な世界に皆大喜びだった。(日本の震災復興支援キャンプと同じだ!)ディレクターのアナさんが嬉しそうに「難民の方々がようやく私たちが信用してくれました」▼世界同盟は難民・人道支援の再開を検討している。東京YMCAでも大いに議論してもらいたいと思う。アナさんが言った。「難民が赤三角はどこでも安心と信頼の目印だと気づいてくれればね」(国際委員長 浅羽俊一郎)



「保育室は懐かしい」と約200人の親子・スタッフが訪れた。

卒園児・保護者200人が保育室に集合

チャイルドケアセンター20周年

1998年5月、東京YMCAの二つ目の保育園として、YMCAチャイルドケアセンター(通称「ハーモニ」)が世田谷区奥沢に誕生しました。0歳から2歳児まで定員20人。世田谷区公認の保育室です。完成するまで、また開園してからいろいろなお知らせが続き、今年で20年目となるが、今年で20年目となる

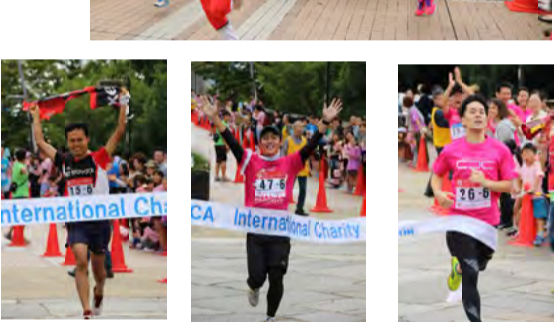
8月26日には「20周年ホームカミングデー」を開催。一度に全員が集まる広さはないものの、卒園児や保護者にとってはこの小さな保育室が、懐かしい場所と考え、年代別に時間帯を分けて集合。初代室長や旧スタッフを含め92組200人が参加しました。中には19歳になった大学生もいました。小さかった頃の写真を見ながら懐かしい保育者と話したり、また20周年記念Tシャツを着たりして、再会を喜ぶ姿がみられました。

「ハーモニ」と言え「ば」という質問にはたくさんさんのメッセージをいただきました。「小さい部屋から想像以上に広い世界に親子共々つながる場所!」みなさんが家族のように笑顔で過ごしている

「ハーモニ」と言え「ば」という質問にはたくさんさんのメッセージをいただきました。「小さい部屋から想像以上に広い世界に親子共々つながる場所!」みなさんが家族のように笑顔で過ごしている

障がい児支援に 来場者1500人

第31回 インターナショナル・チャリティーラン



写真左から (カッコ内はチーム名)
1位:富士ゼロックス端数倶楽部「陸上部」
2位:東京YMCA山手センター「ピンクパンサー」
3位:(株)カーギルジャパン「ピュレピュ ☆ ラン」



→コスチューム賞は、(株)カーギルジャパン「ピュレピュ ☆ ラン」チームの皆さん。手作りの衣装で会場を彩りました。

障がいのある子どもたちを支援する「第31回東京YMCAインターナショナル・チャリティーラン2017」を9月23日、都立木場公園で開催しました。前夜からの大雨で一時は開催が危ぶまれましたが、設営の頃には薄日が差し始め、300人のランナーたちが力走しました。レース前の「こどもラン」には幼児

小学生約450人とその保護者あわせて700人が参加したほか、沿道をうめた応援者と、ボランティア・スタッフ約170人を含めると来場者総数は1500人を越え、にぎやかな大会となりました。

この大会は1987年に東京で始まり、今年で31年目。今では全国20カ所のYMCAで年間1万人以上のランナーとサポートになりました。今年にはスターターとして都議会議員の山崎一輝氏が来場。また閉会式には山崎孝明江東区長も激励に駆けつけてくださいました。

今年、参加・協賛してくださった企業・団体は以下のとおり。入賞者への賞品や抽選会の景品、ランナーへの飲食物など、物品によるご支援も多数いただきました。おかげさまで支援金総額は480万円。障がいのある子どもたちのプログラムのために大切に用いさせていただきます。

参加・協賛くださった企業・団体

- 三菱商事株式会社
- 富士通株式会社
- 株式会社カーギルジャパン
- 富士ゼロックス端数倶楽部
- ジョンソンコントロールズ株式会社
- 岡谷エレクトロニクス株式会社
- ピザ・ワールドワイド・ジャパン株式会社
- 上田八木短資株式会社
- 東京トヨペット株式会社
- フットマーク株式会社
- R. R. Donnelley Japan株式会社
- 株式会社アサヒ・エコキャリア
- グループ テンダ
- キャセイパシフィック航空日本支社
- アメアスポーツジャパン株式会社
- 山崎製パン株式会社
- FVイーストジャパン株式会社
- ライオン株式会社
- イオン株式会社
- カルビー株式会社
- 株式会社昭和電気産業
- コストコホールセールジャパン株式会社
- 有限会社レッド ウィング
- 株式会社恵愛
- 国際青少年センター東山荘 (日本YMCA同盟)
- ワイズメンズクラブ国際協会 在京ワイズメンズクラブ
- YMサービス株式会社
- しなのYMCAこども園
- 東京YMCA江東コミュニティーセンター 江東YMCA幼稚園
- 東京YMCA東陽町コミュニティーセンター
- 東京YMCA西東京コミュニティーセンター
- 東京YMCA山手コミュニティーセンター
- 東京YMCA国際ホテル専門学校
- 東京YMCA南コミュニティーセンター



会場設営、コース誘導、模擬店係として170人のボランティア・スタッフが活躍



参加者への記念品や飲食物も多数ご寄付いただきました。

絵本の大切さ



そうそう紅葉と温泉の恋しい季節になりました。たまには温泉にでもつかって日頃の疲れを癒したいと思う方も多いでしょう。のんびり景色を眺めながら、ゆったり過ごすこと。それは最高の贅沢なのかもしれません。温泉は色々な土地にある。読んでもらう経験は、のつながりが文字やイラストでやり取りされることが増えました。

子どもにとっての絵本の読み聞かせは、どこか温泉に似ているように思います。子どもたちは、大好きな絵本を繰り返し、飽きることもなく、何よりも気持ちの良いものです。保育士として現場にいた頃、度々そのような経験を通して、自分の心から1年が過ぎたように思っています。子どもたちの出会いを通して、絵本の素晴らしさを伝えていきたいと思います。

(社会体育・保育専門学校 保育科実習主任) 中谷綾

バングラデシユの子どもたちを支援

園児・会員等186人が街頭募金活動

9月16日(土)、恒例の国際協力一斉街頭募金を新宿駅周辺で実施しました。台風が接近する肌寒い日でしたが、4時間



子どもたちも学生たちも、大きな声で一生懸命に呼びかけました。

にわたり呼びかけを行うことができました。街頭に立ったのは、東京YMCAの各コミュニティセンター、学校、幼稚園をはじめ各拠点から集まったボランティア総勢186人。新宿駅東口、西口、南口の3カ所に分かれ、幼児からシニアまで一緒に声を合わせて支援を呼びかけました。留学生たちは各国の言葉をバネルに書いてアピールし、道をゆく様々な国の方々からもご協力をいただきました。

寄せられた募金総額は21万5717円。バングラデシユYMCAの学校(NFPE)をはじめ、今夏の大洪水の被災者支援に用います。皆様の温かなご支援に心から感謝を申し上げます。(国際協力部 戸坂昇子)

バングラデシユYMCAより 近況レポート

支援に感謝

皆さまのご支援により、下記の活動が行われています。現地YMCAからレポートが届きましたので、ご報告します。



NFPEダハパラ教室に通う小学2年生のスミタさんとお母さん。「勉強してちゃんとした仕事につきたい」と語る。

バングラデシユでは、家事労働で忙しいなどの理由から学校に通えない子どもたちが少なくありません。そこでYMCAは、各国からの支援を受けて、教材や制服を無償提供し、授業時間を短くするなどして、こうした子どもたちも通いやすい学校「NFPE (Non Formal Primary Education)」を運営しています。東京YMCAからの募金は、現在7校のNFPEのために用いられており、237人が参加しています。2016年は誰一人ドロップアウトすることなく、全員が進級できました。

また中等教育修了資格(SSC=Secondary School Certificate)の受験支援のため、学習プログラムを無償で提供し、受験料もサポートしています。2月に行われた試験では91人が合格し、全員が高等学校へ入学しました。

皆さまの支援によって子どもたちが教育を受け、貧困の連鎖から抜け出し、人生に希望をもてるようになっていくことを、感謝して報告します。

(バングラデシユYMCA アレックス・ローリム) 翻訳：星野太郎 (東京YMCA副総主事)

東京-NY フロストバレー便り

日本に縁のある子どもたち352名がフロストバレーに集まり、今年もサマーキャンプは大盛況のうちに終了した。キャンプ中は各期でオールキャンイベントが実施され、フロストバレー全体が一緒になって過ごす日がある。600人以上の子どもたち、スタッフが丸となって参加するオールキャンイベントはとてダイナミックでエネルギーに満ち溢れている。内容は毎回異なるが、その中一つ「オリンピック」を紹介したい。

全員が8つの国(インド、ウガンダ、ジャマイカ、カナダ、コロンビア、メキシコ、スコットランド、イタリア)に分かれて2日間に渡って応援合戦やアクティビティをしながら「Spirit賞」を目指す。Spirit賞を選ぶのは「ホストカントリー」と言われるスタッフチームで、前年度にSpirit賞を受賞した「国」が担当する。昨年初めて日本がSpirit賞を受賞したので今年はホストカントリーとして様々な場面で日本らしさが出ていたのはうれしかった。

今期のフロストバレーには18カ国、23州から合計510名のサマーキャンプリーダーが参加していた。オリンピックでは8カ国にそれぞれカルチャーアドバイザーのリーダーがいて、その国について教えてくれる。ほとんどの子どもたちが自分に縁の無い「国(=チ



ーム)に所属するのだが、オリンピックの2日間は全力でその国を応援する。それまでどこにあるのかも知らなかった国のことを知り、文化を学び、国旗を知り、その国を一生懸命応援する。

この体験は何年経っても覚えていて「私、5年前のキャンプのとき日本だったよ。すごく楽しかった! Arigato」と言ってくるアメリカ人のキャンパーもおり、オリンピックを通して一つの国を知り、愛着を持つという行為はとて平和だと感じた。フロストバレーが大切にしている8つの価値「Honesty(正直)、Caring(思いやり)、Respect(尊敬)、Responsibility(責任)、Stewardship(役割)、Diversity(多様性)、Inclusiveness(包括力)、Community(地域)」が実に具体化されたイベントだ。

(在フロストバレーYMCAパートナーシップオフィス 池田麻梨子)

防災の基本は「近所を知ること」

災害に備えて「まち歩き」

「自分のまちを知っておくこと。それが防



実際に東陽町周辺を観察した後、防災マップ作りをする会員・職員。

災に役立つ」。そんな視点に立った「災害スタディ」を9月2日、会員部が主催。「東京災害ボランティアネットワーク」の福田(略称・東災ボ)の福田信章事務局長を講師に、会員・職員35人が「まち歩き」と防災マップ作りを体験しました。

基調講演で福田さんは、「阪神・淡路大震災では60%以上が近所の人に助けられた。大規模な災害時には、消防士など専門家は不足するため、半

径500m以内にいる人々と助け合うことが重要になる。日ごろから近所とつながり、まちを知っておくことが減災につながる」と力をこめました。

福田さんは阪神・淡路大震災を契機に「東災ボ」を設立し、防災意識を高める講座などを開催していますが、非常袋に何を

入れておいたらいいかなど、のノウハウは各家庭によって異なるため、日ごろから家族で話し合っておくことを推奨。また近

所の人と一緒に、災害時を想定して自分のまちを歩く「防災まち歩き」と、そこで発見した危険箇所や防災に役立つ資源をまとめる「防災マップ作り」を指導しています。同時にその作業によって近所の人たちとの関係作りも目指しています。

この日YMCAの会員・職員は、東陽町周辺を1時間ほどかけて歩き、倒壊の恐れのある塀や古い家屋といった危険箇所や、消火器、自販機、医療機関、防災倉庫など使えそうな資源をチェック。それを地図に書き込んで「防災マップ」を作

り、話し合いました。「とにかく他人任せにしないこと。日ごろから各家庭で備え、近所と助け合える関係を築いておくこと。過去の災害で、命と引き換えに残されたこの教訓をムダには

ならない」。数々の災害救助活動を経験してきた福田さんの言葉に、参加者一同、真剣に防災を考

熊本の復興支援へ、オルガンコンサート

クラウディオ・ブリツイさん共演

熊本の大地震から早1年半。今もなお苦しみの中に置かれている方々がいらっしやることに心を痛め、今年も音楽家のご厚志によるチャリティーコンサートが9月7日に実現しました。当日は160人の来場者で会場の日本基督教団渋谷教会は一杯になりました。イタリアの高名なオルガニスト、クラウディオ・ブリツイさんを中心に、飯靖子さん(本会理事)のオルガン、渡辺美穂さんのピアノ、飯頭さんのヴィオラの音色が加わり、バロックをメインとした多彩な音楽が礼拝堂に豊かに響き渡りました。特に大きなパイプオルガンと小さなリードオルガン(足踏みオルガン)の共演は、めったに味わえない今回のコンサートの醍醐味でした。終演後は感動のさめやらない来場者の方から224,462円のご寄付が寄せられました。会場を無償で提供くださった日本基督教団渋谷教会をはじめ、ご支援をいただいた皆様に心から感謝を申しあげます。(本部事務局 戸坂昇子)

江東センター 親子60人でペンキ塗り

江東センターの会館をきれいにしようと9月9日午後、日ごろ江東YMCA幼稚園や江東コミュニティーセンターに通う家族、ワイズメンズクラブ、教職員など約60人が集まり、壁や遊具のペンキ塗り



とタイル貼りなどをしました。作業の講師を務めたのは、江東コミュニティー委員の鈴木雅博さん。江東YMCA幼稚園の祖父でもある鈴木さんは、DIYアドバイザーとして現在テレビ番組にも出演中の腕前で、道具の使い方から丁寧に指導してくださいました。

子どもたちは、頭も手も足もペンキだらけになりながら、夢中で作業。家族みんなで楽しみながら、あっという間の3時間でした。おかげさまで壁や遊具は見違えるようにきれいになりました!

今後も江東コミュニティーセンターは、共同作業を通じて家族のつながりを深めていくことも願って、今回のようなワークを継続していく予定です。(江東センター 草分俊一)

(広報室)